

アクティブユーザーご紹介 part 2

ベル歯科医院



ご施設名

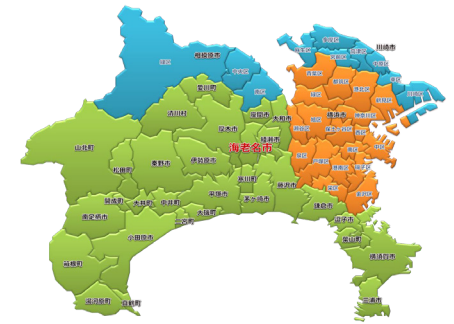
◆ベル歯科医院

ご住所

◆〒243-0432 神奈川県海老名市中央1-20-43

施設長

◆ベル歯科医院 院長・歯科医師 鈴木 彰



患者情報

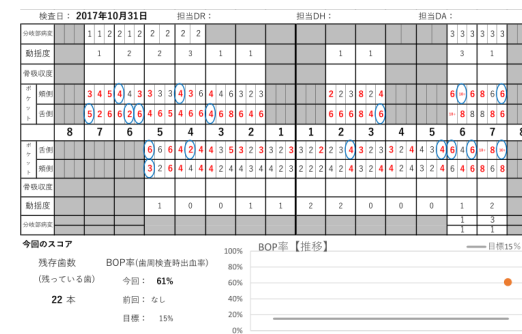
- ・年 齢 : 72歳(初診時67歳)
- ・性 別 : 男
- ・全身疾患: 糖尿病、高血圧
- ・主 訴 : 左上歯が痛い
- ・希 望 : 歯はできるだけ残したい

今までと同じように長く噛めるようにしたい

ずっと健康でいたい

歯周病治療の紹介

初診時



PCR検査結果報告書

受 付 2017/11/10 - 0037

医 院 名 663.ベル歯科医院

カルテNo 15540

生年月日 S25/

フリガナ 氏 名 性 別 男

検査項目	測 定 値	基準値 ^{※1}	単位
P.g菌	1,040	1,000以下	Copies
T.g菌	2,424	1,000以下	Copies
T.f菌	4,368	1,000以下	Copies
Red Complex	7,832	3,000以下	Copies
A.g菌		0	Copies
P.i菌		1,000以下	Copies
F.n菌		1,000以下	Copies

※1 生菌のデータに基づく参考基準値

- ・全顎的にBOPが認められ、歯周ポケットからの排膿も所々認められた。
- ・臼歯部を中心に深い歯周ポケットを認めた。
- ・Red Complexは基準値以上検出された。
- ・強い口臭を感じた。

アプローチ

細菌の量

プロフェッショナル
ケア

セルフケア

細菌の質

抗菌療法

ジスロマック錠250mg	3日分（内服）
フラジール錠250mg	7日分（内服）

- ・細菌数の減少のために、セルフケア指導と頻回のプロフェッショナルケア（PMTC、歯周ポケット内洗浄等）を保険外診療で約2か月間行った。
- ・歯周病原因細菌減少のために、抗菌薬を2種（ジスロマック、フラジール）を内服で投薬した。

抗菌療法後

※左上6番は抜歯を行った



PCR検査結果報告書

受 付 2018/02/09 - 00:41
臨床部 663 ペル歯科医院
カネサキ 15540
フリガナ
氏 名 生 年 月 日 25/
性 別 男

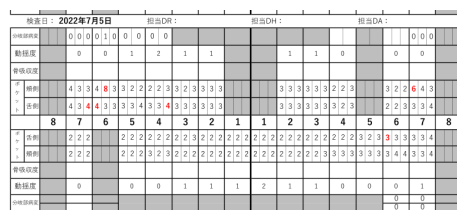
検査結果				
検査項目	測定 値	基準値 ^{※1}	判定	備考
P. 歯周	15	10.0以下	OK	Copied
T. 歯周	46	10.0以下	OK	Copied
T. 歯槽	57	10.0以下	OK	Copied
Red Complex	118	30.0以下	OK	Copied
A. 歯周		0		Copied
P. 歯周		10.0以下	OK	Copied
T. 歯周		10.0以下	OK	Copied

※1 当院のデータに基づき参考基準値

- ・歯肉の炎症（BOP、排膿箇所）が大幅に減少した。（BOP率61%→19%）
- ・4mm以上の歯周ポケットを有する歯は20歯から14歯まで減少した。
- ・Red Complexの検出量が減少した。
- ・口臭はほとんどなくなった。

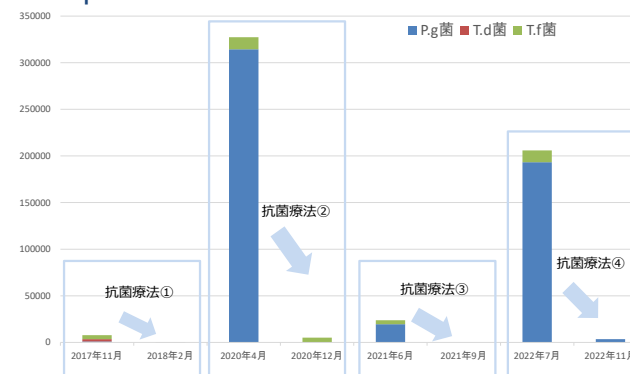
現在

※右下5番は抜歯し、右下5, 7番と左上4, 6番はインプラント埋入を行った



- ・現在はメンテナンスを2か月に1回、r-PCR検査、抗菌療法を年に1回行っている。
その結果、BOP率5%、4mm以上の歯周ポケットを有する歯は7歯で、歯周組織の状態は安定している。
- ・初診後に左上6番、右下5番は抜歯となったが、それ以降は欠損補綴も行い、歯牙の喪失なく残存歯数を維持できている。

Red Complexの推移



	2017年11月	2018年2月	2020年4月	2020年12月	2021年6月	2021年9月	2022年7月	2022年11月
P ₆ 菌	1040	15	314402	64	19518	0	193227	3509
T ₄ 菌	2424	46	0	0	0	0	0	0
T ₇ 菌	4368	57	13017	5047	4247	0	12698	0
Ref Complex	7832	118	327419	5111	23765	0	205925	3509

歯周病治療の紹介

患者さんの感想

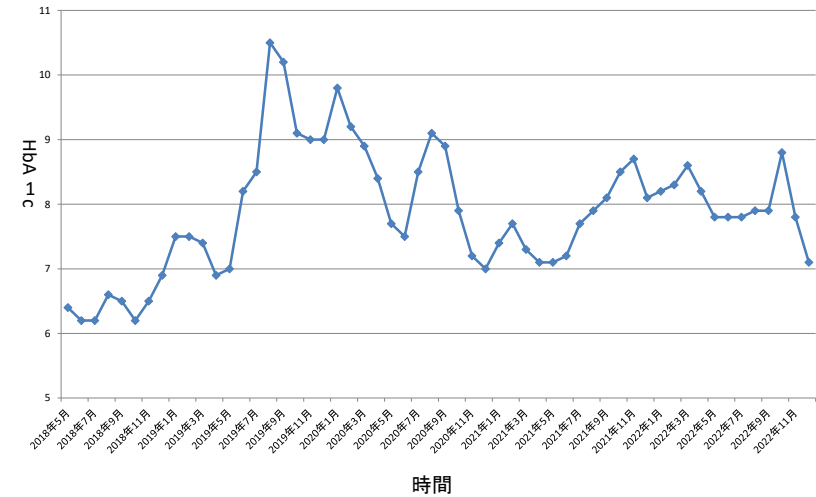
- ・ 歯磨きのときの出血が少なくなってきた。
- ・ 口の中がスッキリした。
- ・ また歯周病菌が増えないか不安だから毎年検査したい。

まとめ

- ・ r-PCR検査を行うことによって、目には見えない歯周病原因細菌の存在を特定でき、そこに対してもアプローチができるため歯周病治療においてかなり有意義であった。
- ・ 歯周病治療前後で口臭がほとんどなくなった。歯周病原因細菌と口臭の強い関連を感じている。
- ・ 歯周病原因細菌は一度減少しても、再度増加する可能性があるため、定期的なr-PCR検査を行い監視する必要があると考えている。

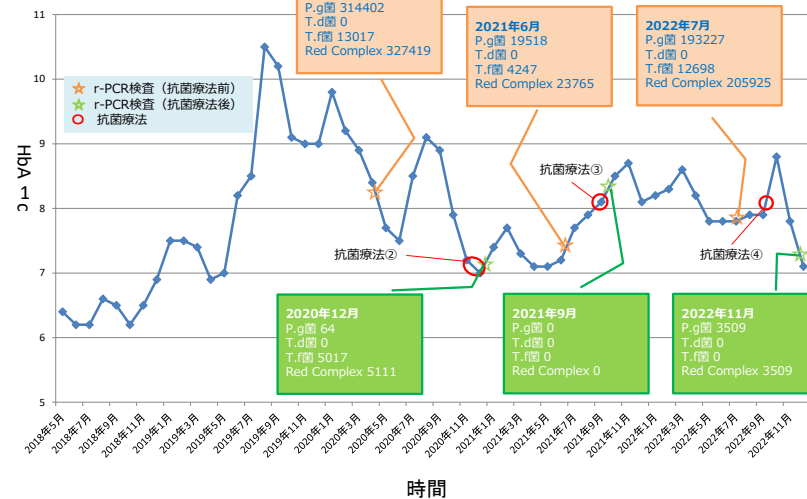
健康へのアプローチの紹介

◇HbA1cの推移（2018年5月～2022年11月）



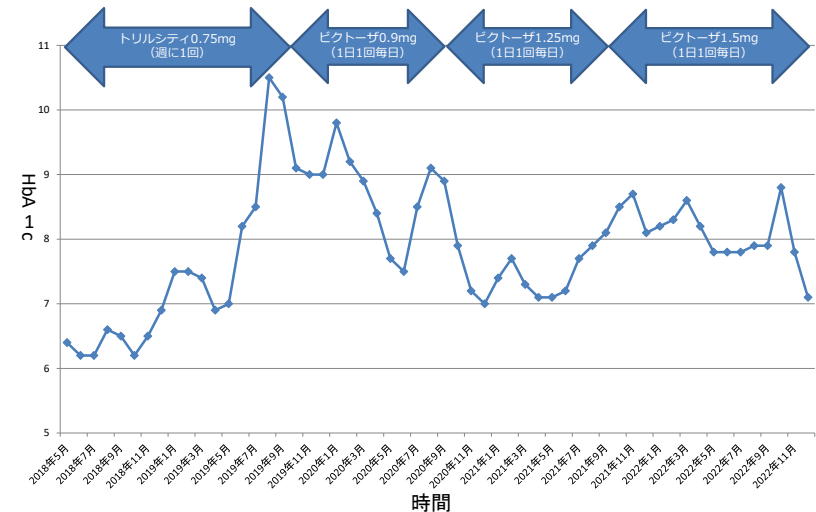
健康へのアプローチの紹介

r-PCR検査の時期と結果



健康へのアプローチの紹介

使用している糖尿病の注射薬



健康へのアプローチの紹介

まとめ

- ・糖尿病(HbA1c)と歯周病原因細菌量の関係は、この症例では比例するものではなかった。実際には注射薬(服薬)や生活習慣(運動、食事など)がより大きな因子と働いている可能性がある。
- ・HbA1cの数値が高いほど、歯周病の状態は関係なく歯周病原因細菌は高い数値を示した。HbA1cの数値が高くなると歯周病原因細菌は増えやすくなる可能性が考えられる。糖尿病患者は歯周組織の状態が問題なくとも、定期的にr-PCR検査を行い、歯周病増悪因子の監視を行うべきであるか考えている。
- ・r-PCRで具体的な検査数値を示すことで糖尿病の状態(HbA1cの数値)への関心が向上し、患者自身の健康への意識がより高くなった。そして、健康へのモチベーションの維持にも役立った。



院長
鈴木 彰 先生



鈴木 先生と職員の皆様



ベル歯科医院
〒243-0432 神奈川県海老名市中央1-20-43